

あいみ富有の里

平成20年12月15日発行
発行元
あいみ富有の里地域振興協議会
総務企画部 上原・岡田
問い合わせ先 64-3504



～お知らせ版 第10号～

◇ふれあいおもちつき

ふれあい部が12月7日(日)に市山にある施設「えぷろん」でおもちをつきました。

ついたおもちは65歳以上の独居高齢者の方と、75歳以上の高齢夫婦を対象にお配りしました。

「えぷろん」を使用したことない部員さんもありましたが、このようないい施設はどんどん利用するべきだと感想をいただきました。

おもちを配った後は慰労会を開催し親睦を深めましたよ(*´`*)



きめの細かいおもちがつきあがりました♪

◇毛津振興協議会が富有の里視察



視察研修会の様子

出雲市・毛津地区振興協議会の26人が11月30日、富有の里を視察に訪れました。富有の里からは、田貝会長や4部の正副部長が出席、若者の定住など共通する課題について意見交換しました。毛津(けづ)は旧佐田町の山間部に位置し、40世帯、140人が生活。11年前から協議会を作って地域づくりと取り組んでおり、特に文化・スポーツ部、ふれあい・環境部という2専門部の活動にほぼ全世帯から部員が出て、地域全体で盛り上げている姿勢が印象に残りました。

◇中山間地域研究センターに視察研修に行きました



説明を熱心に聞く参加者

全国でも唯一という中山間地研究機関・島根県中山間地域研究センター（島根県飯南町）を12月3日、視察しました。

南さいはく地域振興協議会の呼びかけで総勢19人が参加。中山間地集落をどう維持するか、など社会的側面から研究と取り組む地域研究グループの藤山浩科長から話を聞きました。

藤山科長は「中山間地には、人が生まれ、育ち、老い、死ぬ舞台装置がそろっている。食料問題など十年後は、田舎の出番。将来は暗くない」と話し、小学校区単位など集落より一回り大きな組織「仮称郷」で将来の地域課題と取り組んだ方がいいとの提案でした。

また、「人と人の出会いは元気の源。意識して地域の広場を作るべきだ」として、買い物、飲食、役場出先などの業務を兼ね備えた「郷の駅」があればいい、という提案もありました。このほか、竹のチップ化、イノシシ防除などの取り組みも見学しました。視察には生涯学習部長・井塚、総務企画部副部长・岡田が参加、詳しくはお尋ねください。

◇富有の里づくり始動

富有の里12の集落づくり計画が出そろい、11月18日、富有の里づくり策定委員会が発足しました。富有の里地域振興協議会正副会長、4つの部の正副部長、さらにこの中に含まれない6集落の総務企画部員さんを加え、16人で構成。この地域にどうにぎわいを作り出すか、深刻なイノシシ対策をどうするか、などが論議に上がっています。お気づきのことがあれば、お気軽に各集落の委員へ声をかけてください。

富有の風

「地域振興協議会が何をやっているか、よく分からない」「まず、広報活動をしっかりやった方がいい」先日開いた富有の里地域づくり計画策定委員会でこんな意見が出ました。確かに広報は年3回程度、行事があっても載るのは忘れたことでは印象も薄れがちです。1枚ものでもいいので回数を多く発行することを心がけることになりました。引き続きご愛読ください。（昭）

行事案内

11月30日（日）
出雲市佐田町毛津地区視察
（29人勉強にこられました）

12月7日（日）実施済み
ふれあいおもちつき

12月12日（金）
講演会

1月18日（日）
男の料理教室